

令和7年度 第2回 安全で快適な自転車等利用環境の向上に関する委員会 議事概要

1. 開催日時等

日時 令和7年12月22日（月）15:00～17:00

会場 中央合同庁舎第3号館 1階 道路局A会議室（オンライン併用）

議事 （1）自転車ネットワークに関する検討状況

・計画【資料1】

・整備【資料2】

（2）今後の進め方【資料3】

委員 屋井 鉄雄（委員長）

入谷 誠、北方 真起（WEB）、楠田 悅子、久保田 尚、栗田 敬子（WEB）、
古倉 宗治（WEB）、小林 成基、佐藤 栄一（代理：田中 成興）、
畠中 紗代（WEB）、三国 成子、吉田 長裕

事務局 国土交通省道路局、警察庁交通局

2. 委員からの主な意見

（1）自転車ネットワークに関する検討状況（計画）【資料1】

- ・都道府県単位の調整会議は、職員が異動で代わっても続く仕組みが重要。（三国委員）
- ・70代以上の高齢者の自転車利用も多いため、高齢者に関するデータも収集・分析したうえで、これを考慮した高齢者の利用を支える自転車ネットワーク計画が重要。（古倉委員）
- ・データの用途として、地域課題へもよいが自転車活用推進計画の指標の設定に活用することが重要である。（古倉委員）
- ・歩道、車道の通行位置を区別したデータが取得できるとよい。（古倉委員）
- ・手引きの対象者は計画策定済みの自治体も含めるかたちではないか。（畠中委員）
- ・地方の自治体にもデータ活用のメリットを伝えられるとよい。（畠中委員）
- ・自治体にはデータの利用も購入もハードルが高い。（楠田委員）
- ・データの使い方について、アンケート等のアナログな手法を含めたうえで、松竹梅など色々な手法を示せるとよい。（楠田委員）
- ・対象者によりデータの取り方も異なり、プローブデータもその一つではないか。（楠田委員）
- ・自転車のデータを扱うにあたり、他の移動手段との連携に係る視点も重要。（楠田委員）
- ・データにはそれぞれ長所・短所があるので、目的に応じて選択できるよう、その特徴が比較できる一覧が最初に示されるとよい。（佐藤委員（代理：田中氏））
- ・自治体としては、データが従来の調査の代替となるのか、新しく何がわかるのかなど、メリットが分かりやすく示されるとよい。（佐藤委員（代理：田中氏））
- ・モデル的にどこか自治体で実施してもらって、データにより結論まで示せるかを確かめるとよい。（小林（成）委員）
- ・3次計画で示すビジョンの実現とデータの活用の関係性が整理されるとよい。（小林）

（成）委員）

- ・データ活用についてこられない人も多いことを危惧。まずはデータを紙に載せてみてみることでもよいかもしない。（久保田委員）
- ・事故データについて、歩道と車道の区別がつくような事故原票になるとよい。（久保田委員）
- ・需要予測では、自転車だけが増えればいいという説明にも見えるが、公共交通とのバランスも考える必要がある。（久保田委員）
- ・データ活用が目的化しないよう留意が必要。（三国委員）
- ・自転車ネットワークの検討において、高齢者の自転車利用を踏まえ地域単位や、学校単位でのエリアという考え方も示せるとよい。（三国委員）
- ・ネットワークの検討にこそデータが重要であり、データを活用して客観的に示すことでネットワーク整備の強力な後押しになりうる。（栗田委員）
- ・現状のデータだけでなく、将来の予測データも活用できるとよい。（栗田委員）
- ・これまで自転車ネットワーク計画は行政だけで考えていたが、データにより行政と民間がコミュニケーションをとれるようになることが重要なポイントの一つ。（吉田委員）
- ・データは万能ではないが、まずはデータ活用に取り組まないと何も始まらない。（吉田委員）
- ・データの必要性について異論はないが、ガイドラインと手引きの役割が誤解のないように伝わればと思う。（屋井委員長）
- ・需要予測について今後しっかり議論できればと思う。（屋井委員長）
- ・これから新たに計画を作る自治体にはハードルが高いので、計画策定済みの自治体の計画改善への活用など、まずは大きな自治体から活用してもらえばよい。（屋井委員長）
- ・手引きについては、本日の議論を踏まえ委員長と吉田委員と事務局とで相談したうえで、何かしらを世の中に出していきたい。（屋井委員長）

（2）自転車ネットワークに関する検討状況（整備）【資料2】

- ・空間再配分で多い事例は、ウォーカブルに合わせた車線見直しによる歩道拡幅と自転車通行空間の整備であり、ウォーカブルとの連携をよく考えるべき。（久保田委員）
- ・歩道の分割の取組について、明確に専用化すると同時に、交差点前後で利用者が迷わずネットワークを辿っていける空間設計の指針を示してほしい。（小林（成）委員）
- ・次期自転車活用推進計画におけるビジョンと整備を紐づけて、自治体が高みを目指すようにしてほしい。（小林（成）委員）
- ・大きなT字路やY字路における自転車の通行方法も整理できるとよい。（小林（成）委員）
- ・自転車交通量や利用者属性などのデータの収集・分析により幅員や整備形態を変えるなど、「整備」でもデータ活用は検討できないか。（古倉委員）
- ・植栽空間の活用を実践した事例について掲載してはどうか。（三国委員）
- ・空間再配分の検討手順の整理は大変重要。（屋井委員長）
- ・幅広歩道の分割も、これまで中途半端な分離だったものを自転車道にするのは望まし

い。（屋井委員長）

・今のがイドラインは市街地で対象にできるところからネットワーク整備するという思想だが、スーパーイクルハイウェイのような構造や規格、ナショナルサイクルルートの走行環境基準なども今後検討できるとよい。（屋井委員長）

（以上）